

家庭学習の充実に向けた取組～児童の主体的な学びを育てる～

美唄市立中央小学校 学級数 15 (校長 松田 一直)

I 実践テーマの趣旨

本校では、児童の確かな学力の育成に向けて、授業時間以外に児童の学習時間を確保することが重要であると考え、家庭の理解と協力を得ながら家庭学習の定着を進めるため、発達の段階を基にした内容となるよう、家庭学習の手引きの内容を小・中学校が連携して作成した。

II 実践の概要

1 学校として系統した家庭学習の進め方へ

- (1) 校内研修において学年ブロックごとに家庭学習の手引きの内容を見直し、家庭で机に向かう時間を設定することで主体的な学びの育成につながることを教員間で共通理解を図った。
- (2) 家庭学習で求められる内容について各学年で交流し、共通理解を図るとともに、最初の段階として教科書の内容をベースにした課題を出すこととして家庭学習を実施した。
- (3) 学年の取組の中で日常的にテストの間違いを訂正させることや日記を継続させることにより、必然的に家庭で机に向かう時間を増やすことも意図的に取り入れた。
- (4) 家庭学習のねらいを、主体的に課題を見いだして取り組むことや学習の定着を図ることとして、職員間で共通理解を図った。また、発達の段階に応じて課題を選択できるように学習プリントを用意し、児童や保護者に対し家庭学習の取り組み方について手引きにまとめ、配付することで家庭からの協力を得ることができた。



2 小・中学校が連携した家庭学習強化週間の設定

【選べる学習課題】

これまでに小・中学校が連携して学習規律の共有化を図る取組を進めてきたことに加え、中学校の定期テスト前の部活動もなく勉強に集中して取り組む期間に合わせて、兄弟がいる家庭では一緒に学習の時間をもたせ、自主学習に主体的に取り組めるように小・中学校合同の取組を行ってきた。保護者の協力も得られたため、児童・生徒にとって小1から中3までの学習の取組方が一連の流れでわかるスタイルに改善した9年間を見通した小・中学校共通の手引を作成した。

【ポイント】
 ①学年の発達の段階に応じた学習の仕方・めあてを示す
 ②中学校に向けて小学校の段階で確実に身に付けさせたい指導事項を踏まえて内容を示す

中央小学校 美唄中学校		家庭学習の手引き			家庭学習は2時間の確保が必須です。めあては必ず見直し、自分の学習計画を立てて取り組むこと。小・中・高共通。TA
学年	めあて	1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学校
めあて	家庭での学習習慣を身に付ける	10～20分	30～40分	50～60分	学習一授業一授業の流れを身に付ける 1年1→2H、2年1.5→2.5H、3年2→3H
内容	学校の課題をやる 大きな字で書く ひらがな、カタカナ、かんじをかく 行列のれんしゅう たのしかったこと、うれしかったことを にっげいする	学校の課題をやる 大きな字で書く 漢字を正しく書く 1日の出来事を思い出して日記を書く 自分で内容を考え、勉強する (国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図画)	学校の課題をやる 大きな字で書く 漢字を正しく書く 1日の出来事を思い出して日記を書く 自分で内容を考え、勉強する (国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図画)	学校の課題 大きな字で書く 漢字を正しく書く 計算の練習をする 自分で内容を考え、勉強する (国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図画)	今日の授業の復習・明日の授業の予習 ① 復習 ② 未定着内容の克服 ③ 予習 ④ 「学習チェックシート」のシートで振り返り
保護者への アドバイス	たし算、ひき算、九九を しっかり覚えましょう！ がんばったことをおうちのひとはほめます おうちの人にも褒めます あしたのことがうれしい人になります	四則計算(たし算、ひき算、かけ算、わり 算)を、素早く正確に！ がんばったことを褒めます おうちの人にも褒めます 明日の学校の準備をします	がんばったことを褒めます おうちの人にも褒めます おうちの人にも褒めます 明日の学校の準備をします	学習の内容を確認をして、おうちの人が褒めてあげてください。	学習をサポートする環境づくり 学習内容の確認 未定着内容の克服 学習への意欲付けを図る 「チェックシート」や「計画表」のコメント 学習内容についてアドバイスをする ノートを通じてアドバイスをし、 読みたたりほめます。
家庭学習のポイント	1.決まった環境で 2.朝の上をきれいにして 3.よい姿勢で 4.テレビを消して 5.学年×10分以上 6.答え合わせをして 7.宿習				
保護者の皆様へ	小学校低学年から中学校までの、9年間の学びの連続性も視野に入れた家庭学習の取り組み方を示させていただきました。 美唄中学校では、中学校の定期テスト2週間前に行われて、小学校も家庭学習強化週間に取組んでいます。中学生(保護者)になれば、スイッチが自然と入りやすくなりますが、小学校から前向きな習慣がなければ、中学校で苦労します。「学習時間」の他に「毎日少しでも机に向かうこと」を「毎日15分」にしたいものです。 ご家庭でも「目」と「手」と「声」をにかけていただくことが、子どもたちの機動力になります。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。				

III 実践の成果と課題

【9年間の系統立てた家庭学習手引き】

- 高学年では家庭での学習時間が1時間未満の割合が15ポイント減少した。
- 家庭学習の在り方について小・中学校の取組を交流することで、小学校教員の意識改革を図ることができた。特に小・中学校9年間を見通した学び方を小学校から着実に身に付けさせることが重要であることを再確認できた。
- 家庭学習の定着は子どもの学力向上のための一策であり、児童生徒が「わかる・できる授業づくり」を基本とする授業改善を確認し、進める必要がある。

家庭学習（自学）の充実を図った学力向上の取組

洞爺湖町立洞爺中学校 学級数5（校長 菅林 秀樹）

I. 実践テーマの趣旨

本校では、「主体的に学ぶ力と確かな学力の向上を図る教育」の実現に向け、学習量を確保し、学びの質を高めるため、生徒が自主的に内容を決め、取り組む自学の充実の取組に重点を置いて、主体的な学習者の育成に向けた実践を重ねている。

II. 本校の実践

1 自学支援

年度初めに自学用のノートを生徒に与えるとともに、学年ごとに家庭で学習する目標時間を決め、その達成状況や学習内容を学年の教員で毎日点検している。自学の内容は生徒が自主的に決め、市販のワーク等の提出も認めている。また、提出されたものは、学年の教員の点検を終えた後、教科担任が点検し、コメントを添えて生徒に返却している。さらに、生徒がチャレンジテストの過去問題等のプリントを自由に持ち帰り自学に活用できるようにしている。



【チャレンジテストの過去問題】

2 放課後学習会

定期テスト前の部活動中止期間には、放課後のスクールバス発車までの時間を活用し、放課後学習会を開催している。1日に実施する教科を2教科設定し、生徒は自分で選んだ教科の学習会に参加している。

3 長期休業中の学習会

長期休業中に学習会を3日間開催している。放課後学習会と同様に、実施する教科をあらかじめ設定し、漢字検定や英語検定、数学検定の対策が行われている。また、3日間のうち、1日を校区内の小学校との合同学習会とし、夏季休業中は第3学年生徒が、冬季休業中は第2学年生徒がミニティーチャーとして、児童の学習を支援している。

4 数学科の学習支援

退職教員等外部人材活用事業を活用し、数学科においてチーム・ティーチングを実施している。チーム・ティーチングによる指導をする他に、第3学年では習熟度別の少人数指導も実施し、きめ細やかな学習指導により数学科の学力向上を図っている。



【授業で使った教材の掲示】

5 日常の学習支援

授業で使用した教材について、ホワイトボード等を使い、廊下に掲示している。生徒が休み時間等に、学習内容を確認するために自由に活用している。

III. 実践の成果（○）と課題（●）

- 学年を縦割りの3グループに編成し、そのグループ内で自学の進め方を交流することにより、自学に対する意識を高めることができた。
- 放課後学習会では、生徒が教科担任に質問をしたり、生徒同士で教え合ったりすることで、個々の課題を解決する機会となっている。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じる中で、学習活動等の制限が生じ、未実施の取組があることから、今年度の取組を検証し学習支援の方法の充実を図る必要がある。